

日本国特許庁
JAPAN PATENT OFFICE

別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されている事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed with this Office.

出願年月日 2002年 7月31日
Date of Application:

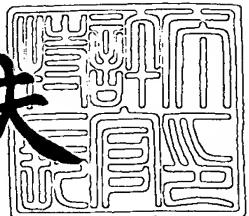
出願番号 特願2002-223160
Application Number:
[ST. 10/C] : [JP 2002-223160]

出願人 セイコーホーリング株式会社
Applicant(s):

2003年 7月30日

特許庁長官
Commissioner,
Japan Patent Office

今井康夫



【書類名】 特許願

【整理番号】 J0091659

【提出日】 平成14年 7月31日

【あて先】 特許庁長官殿

【国際特許分類】 G09F 9/30

H05B 33/04

【発明者】

【住所又は居所】 長野県諏訪市大和3丁目3番5号 セイコーホームズ株式会社内

【氏名】 宮澤 貴士

【特許出願人】

【識別番号】 000002369

【氏名又は名称】 セイコーホームズ株式会社

【代理人】

【識別番号】 100095728

【弁理士】

【氏名又は名称】 上柳 雅裕

【連絡先】 0266-52-3139

【選任した代理人】

【識別番号】 100107076

【弁理士】

【氏名又は名称】 藤岡 英吉

【選任した代理人】

【識別番号】 100107261

【弁理士】

【氏名又は名称】 須澤 修

【手数料の表示】

【予納台帳番号】 013044

【納付金額】 21,000円

【提出物件の目録】

【物件名】 明細書 1

【物件名】 図面 1

【物件名】 要約書 1

【包括委任状番号】 0109826

【プルーフの要否】 要

【書類名】 明細書

【発明の名称】 電子回路、電子回路の駆動方法、電気光学装置、電気光学装置の駆動方法及び電子機器

【特許請求の範囲】

【請求項 1】 第1の端子と第2の端子と第1の制御用端子とを備えた第1のトランジスタと、

第3の端子と第4の端子と第2の制御用端子とを備え、前記第1の制御用端子に前記第3の端子が接続された第2のトランジスタと、

第1の電極と第2の電極とを備え、前記第1の制御用端子に前記第1の電極が接続された容量素子と、

第5の端子と第6の端子とを備え、前記第2の電極に前記第5の端子が接続された第3のトランジスタと、を含み

前記第2の制御用端子が前記第3の端子に接続されていることを特徴とする電子回路。

【請求項 2】 請求項 1 に記載の電子回路において、

第7の端子と第8の端子とを備え、前記第4の端子に前記第7の端子が接続された第4のトランジスタを含むことを特徴とする電子回路。

【請求項 3】 請求項 1 または 2 に記載の電子回路において、

前記第1の端子には電子素子が接続されていることを特徴とする電子回路。

【請求項 4】 請求項 3 に記載の電子回路において、

前記電子素子は、電流駆動素子であることを特徴とする電子回路。

【請求項 5】 複数の第1の信号線と、複数の第2の信号線と、複数の電源線と、複数の単位回路を含む電子回路であって、

前記複数の単位回路の各々は、

第1の端子と第2の端子と第1の制御用端子とを備えた第1のトランジスタと

第3の端子と第4の端子と第2の制御用端子とを備え、前記第1の制御用端子に前記第3の端子が接続された第2のトランジスタと、

第1の電極と第2の電極とを備え、前記第1の制御用端子に前記第1の電極が

接続された容量素子と、

第5の端子と第6の端子と第3の制御用端子とを備え、前記第2の電極に前記第5の端子が接続された第3のトランジスタと、を含み、

前記第2の制御用端子が前記第3の端子に接続され、

前記第3の制御用端子が前記複数の第1の信号線のうちの一つに接続されていることを特徴とする電子回路。

【請求項6】 請求項5に記載の電子回路において、

第7の端子と第8の端子と第4の制御用端子とを備え、前記第4の端子に前記第7の端子が接続され、前記第4の制御用端子が前記複数の第2の信号線のうちの一つに接続された第4のトランジスタを含むことを特徴とする電子回路。

【請求項7】 請求項5または6に記載の電子回路において、

前記第1の端子には電子素子が接続されていることを特徴とする電子回路。

【請求項8】 請求項7に記載の電子回路において、

前記電子素子は、電流駆動素子であることを特徴とする電子回路。

【請求項9】 信号を電荷として保持する保持手段と、

前記保持手段への前記信号の伝送を制御する第1のスイッチング用トランジスタと、

前記保持手段に保持された電荷に基づいて導通状態が設定される駆動用トランジスタと、

前記保持手段への前記信号の伝送に先立って前記駆動用トランジスタの制御用端子を所定の電位に設定する調整用トランジスタと
を備えたことを特徴とする電子回路。

【請求項10】 請求項9に記載の電子回路において、

前記調整用トランジスタと所定電位との電気的接続又は電気的切断を制御する第2のスイッチング用トランジスタを含むことを特徴とする電子回路。

【請求項11】 請求項9または10に記載の電子回路において、

前記駆動用トランジスタには電子素子が接続されていることを特徴とする電子回路。

【請求項12】 請求項11に記載の電子回路において、

前記電子素子は、電流駆動素子であることを特徴とする電子回路。

【請求項 13】 第1の端子と第2の端子と第1の制御用端子とを備えた第1のトランジスタと、

第3の端子と第4の端子とを備え、前記第1の制御用端子に前記第3の端子が接続された第2のトランジスタと、

第1の電極と第2の電極とを備え、前記第1の制御用端子に前記第1の電極が接続された容量素子と

を含む電子回路の駆動方法であって、

前記第4の端子を所定電位に電気的に接続するとともに前記第1の制御用端子を第1の電位に設定する第1のステップと、

前記第4の端子を前記所定電位から電気的に切断した状態で、前記容量素子の第2の電極の電位を第2の電位から第3の電位に変化させることにより前記第1の制御用端子を前記第1の電位から変化させる第2のステップと
を含むことを特徴とする電子回路の駆動方法。

【請求項 14】 請求項13に記載の電子回路の駆動方法において、
少なくとも前記第1のステップを行っている期間は前記第2の電極の電位を前記第2の電位に設定した状態で行うこととする電子回路の駆動方法。

【請求項 15】 複数の走査線と、複数のデータ線と、複数の電源線と、電気光学素子を有する複数の単位回路を含む電気光学装置であって、

前記複数の単位回路の各々は、

第1の端子と第2の端子と第1の制御用端子とを備えた第1のトランジスタと

、
前記第1の端子と接続された電気光学素子と、

第3の端子と第4の端子と第2の制御用端子とを備え、前記第1の制御用端子に前記第3の端子が接続された第2のトランジスタと、

第1の電極と第2の電極とを備え、前記第1の制御用端子に前記第1の電極が接続された容量素子と、

第5の端子と第6の端子と第3の制御用端子とを備え、前記第2の電極に前記第5の端子が接続された第3のトランジスタと、

第7の端子と第8の端子とを備え、前記第7の端子が前記第4の端子に接続された第4のトランジスタと、を含み、

前記第2の制御用端子が前記第3の端子に接続され、

前記第3の制御用端子が前記複数の走査線のうちの一つに接続され、

前記第6の端子が前記複数のデータ線のうちの一つに接続されていることを特徴とする電気光学装置。

【請求項16】 請求項15に記載の電気光学装置において、

前記電気光学素子は、有機EL素子であることを特徴とする電気光学装置。

【請求項17】 複数の走査線と、複数のデータ線と、複数の電源線と、電気光学素子を有する複数の単位回路とを備えた電気光学装置であって、

前記複数の単位回路の各々は、

前記複数の走査線のうち対応する一つの走査線を介して供給される走査信号に応じて導通状態が制御される第1のスイッチング用トランジスタと、

前記複数のデータ線の一つのデータ線と前記第1のスイッチング用トランジスタとを介して供給されるデータ信号を電荷として蓄積する保持手段と、

前記保持手段に蓄積された電荷量に基づいて導通状態が設定され、前記導通状態に応じた電流レベルを有する電流を前記電気光学素子に供給する駆動用トランジスタと、

前記保持手段へ前記データ信号を伝送するのに先立って前記駆動用トランジスタの制御用端子を所定の電位に設定する調整用トランジスタとを備えたことを特徴とする電気光学装置。

【請求項18】 請求項17に記載の電気光学装置において、

前記複数の単位回路の各々は、前記調整用トランジスタと所定電位との電気的接続又は電気的切断を制御する第2のスイッチング用トランジスタを含むことを特徴とする電気光学装置。

【請求項19】 請求項17または18に記載の電気光学装置において、

前記電気光学素子は、有機EL素子であることを特徴とする電気光学装置。

【請求項20】 第1の端子と第2の端子と第1の制御用端子とを備えた第1のトランジスタと、

第3の端子と第4の端子とを備え、前記第1の制御用端子に前記第3の端子が接続された第2のトランジスタと、

第1の電極と第2の電極とを備え、前記第1の制御用端子に前記第1の電極が接続された容量素子と

を含む複数の単位回路と、複数の走査線と、複数のデータ線と、複数の電源線とを含む電気光学装置の駆動方法であって、

前記第4の端子を所定電位に電気的に接続するとともに前記第1の制御用端子を第1の電位に設定する第1のステップと、

一端が前記第2の電極に接続された第3のトランジスタを前記複数の走査線を介して走査信号を供給することによりオン状態とした後、前記第4の端子を前記所定電位から電気的に切断した状態で、前記複数のデータ線からデータ信号に対応する電圧を前記第3のトランジスタを介して前記第2の電極に印加し、前記第2の電極の電位を第2の電位から第3の電位に変化させることにより前記第1の制御用端子の電位を前記第1の電位から変化させる第2のステップとを含むことを特徴とする電気光学装置の駆動方法。

【請求項21】 請求項20に記載の電気光学装置の駆動方法において、少なくとも前記第1のステップを行っている期間は前記容量素子の第2の電極の電位を前記第2の電位に設定した状態で行うことを特徴とする電気光学装置の駆動方法。

【請求項22】 請求項1～12に記載の電子回路を実装したことを特徴とする電子機器。

【請求項23】 請求項15～19に記載の電気光学装置を実装したことを特徴とする電子機器。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】

本発明は、電子回路、電子回路の駆動方法、電気光学装置、電気光学装置の駆動方法及び電子機器に関するものである。

【0002】

【従来の技術】

有機EL素子は低電力で駆動することができる自発光素子であるので、低消費電力、高視野角、高コントラスト比の電気光学装置を実現することができるものと期待されている。

【0003】

例えは、液晶素子、有機EL素子、電気泳動素子、電子放出素子等を備えた電気光学装置の駆動方式の一つにアクティブマトリクス駆動方式がある。アクティブマトリクス駆動方式の電気光学装置は、その表示パネル部に複数の画素回路がマトリクス状に配置されている。前記複数の画素回路の各々は、電気光学素子と、その電気光学素子に駆動電力を供給する駆動用トランジスタとを備えている。

【0004】

【発明が解決しようとする課題】

しかしながら、各画素回路は、前記駆動用トランジスタの閾値電圧などの特性にはばらつきがあるため、同じ階調に対応するデータ信号が供給されても電気光学素子の輝度が各画素毎に異なってしまう場合がある。特に、前記駆動用トランジスタとして薄膜トランジスタを用いた場合は、その閾値電圧のはらつきが顕著であるため、所望の表示品位が得られないことがある。

【0005】

本発明は上記問題点を解決するためになされたものであって、その目的は、トランジスタの閾値電圧のはらつきを低減することができる電子回路、電子回路の駆動方法、電気光学装置、電気光学装置の駆動方法及び電子機器を提供することにある。

【0006】

【課題を解決するための手段】

本発明における電子回路は、第1の端子と第2の端子と第1の制御用端子とを備えた第1のトランジスタと、第3の端子と第4の端子と第2の制御用端子とを備え、前記第1の制御用端子に前記第3の端子が接続された第2のトランジスタと、第1の電極と第2の電極とを備え、前記第1の制御用端子に前記第1の電極が接続された容量素子と、第5の端子と第6の端子とを備え、前記第2の電極に

前記第5の端子が接続された第3のトランジスタと、を含み前記第2の制御用端子が前記第3の端子に接続されている。

【0007】

これによれば、第1のトランジスタの製造ばらつきによる閾値電圧を補償する電子回路を提供することができる。

この電子回路において、第7の端子と第8の端子とを備え、前記第2のトランジスタの前記第4の端子に前記第7の端子が接続された第4のトランジスタを含む。

【0008】

これによれば、前記第4のトランジスタの導通状態を制御することにより前記第1の制御用端子の電位を所望の電位に設定し、維持することができる。

上記の電子回路において、前記第1の端子には電子素子が接続されるようにしても良い。

【0009】

上記の電子回路において、前記電子素子としては、例えば、電流駆動素子であっても良い。

本発明における電子回路は、複数の第1の信号線と、複数の第2の信号線と、複数の電源線と、複数の単位回路を含む電子回路であって、前記複数の単位回路の各々は、第1の端子と第2の端子と第1の制御用端子とを備えた第1のトランジスタと、第3の端子と第4の端子と第2の制御用端子とを備え、前記第1の制御用端子に前記第3の端子が接続された第2のトランジスタと、第1の電極と第2の電極とを備え、前記第1の制御用端子に前記第1の電極が接続された容量素子と、第5の端子と第6の端子と第3の制御用端子とを備え、前記第2の電極に前記第5の端子が接続された第3のトランジスタと、を含み、前記第2の制御用端子が前記第3の端子に接続され、前記第3の制御用端子が前記複数の第1の信号線のうちの一つに接続されている。

【0010】

これによれば、第1のトランジスタの製造ばらつきによる閾値電圧を補償することができる電子回路を提供することができる。

この電子回路において、第7の端子と第8の端子と第4の制御用端子とを備え、前記第4の端子に前記第7の端子が接続され、前記第4の制御用端子が前記複数の第2の信号線のうちの一つに接続された第4のトランジスタを含む。

【0011】

これによれば、前記第4のトランジスタの導通状態を制御することにより前記第1の制御用端子の電位を所望の電位に設定し、維持することができる。

上記の電子回路において、前記第1の端子には電子素子が接続されるようにしても良い。

【0012】

上記の電子回路において、前記電子素子としては、例えば、電流駆動素子であっても良い。

本発明における電子回路は、信号を電荷として保持する保持手段と、前記保持手段への前記信号の伝送を制御する第1のスイッチング用トランジスタと、前記保持手段に保持された電荷に基づいて導通状態が設定される駆動用トランジスタと、前記保持手段への前記信号の伝送に先立って前記駆動用トランジスタの制御用端子を所定の電位に設定する調整用トランジスタとを備えた。

【0013】

これによれば、第1のスイッチング用トランジスタのオン・オフ制御によって駆動用トランジスタの閾値電圧を補償することができる電子回路を提供することができる。

【0014】

上記の電子回路において、前記調整用トランジスタと所定電位との電気的接続又は電気的切断を制御する第2のスイッチング用トランジスタを含んでいることが好ましい。

【0015】

上記の電子回路において、前記駆動用トランジスタには電子素子が接続されるようにしても良い。

上記の電子回路において、電子素子としては、例えば、電流駆動素子などが挙げられる。

【0016】

本発明における電子回路の駆動方法は、第1の端子と第2の端子と第1の制御用端子とを備えた第1のトランジスタと、第3の端子と第4の端子とを備え、前記第1の制御用端子に前記第3の端子が接続された第2のトランジスタと、第1の電極と第2の電極とを備え、前記第1の制御用端子に前記第1の電極が接続された容量素子とを含む電子回路の駆動方法であって、前記第4の端子を所定電位に電気的に接続するとともに前記第1の制御用端子を第1の電位に設定する第1のステップと、前記第4の端子を前記所定電位から電気的に切断した状態で、前記容量素子の第2の電極の電位を第2の電位から第3の電位に変化させることにより前記第1の制御用端子を前記第1の電位から変化させる第2のステップとを含む。

【0017】

これによれば、前記第1のトランジスタ製造ばらつきによる閾値電圧を補償する電子回路を駆動させることができる。

上記の電子回路の駆動方法において、前記第1のステップは前記第2の電極の電位を前記第2の電位に設定した状態で行うことが好ましい。

【0018】

本発明における電気光学装置は、複数の走査線と、複数のデータ線と、複数の電源線と、電気光学素子を有する複数の単位回路を含む電気光学装置であって、前記複数の単位回路の各々は、第1の端子と第2の端子と第1の制御用端子とを備えた第1のトランジスタと、前記第1の端子と接続された電気光学素子と、第3の端子と第4の端子と第2の制御用端子とを備え、前記第1の制御用端子に前記第3の端子が接続された第2のトランジスタと、第1の電極と第2の電極とを備え、前記第1の制御用端子に前記第1の電極が接続された容量素子と、第5の端子と第6の端子と第3の制御用端子とを備え、前記第2の電極に前記第5の端子が接続された第3のトランジスタと、第7の端子と第8の端子とを備え、前記第7の端子が前記第4の端子に接続された第4のトランジスタと、を含み、前記第2の制御用端子が前記第3の端子に接続され、前記第3の制御用端子が前記複数の走査線のうちの一つに接続され、前記第6の端子が前記複数のデータ線のう

の一つに接続されている。

【0019】

これによれば、第1のトランジスタの製造ばらつきによる閾値電圧を補償することができる。その結果、電気光学素子の輝度階調を精度良く制御することができるため、従来の電気光学装置と比較してその表示品位の向上を図ることができる。

【0020】

上記の電気光学装置において、前記電気光学素子としては、例えば、有機EL素子が挙げられる。

本発明における電気光学装置は、複数の走査線と、複数のデータ線と、複数の電源線と、電気光学素子を有する複数の単位回路とを備えた電気光学装置であつて、前記複数の単位回路の各々は、前記複数の走査線のうち対応する一つの走査線を介して供給される走査信号に応じて導通状態が制御される第1のスイッチング用トランジスタと、前記複数のデータ線の一つのデータ線と前記第1のスイッチング用トランジスタとを介して供給されるデータ信号を電荷として蓄積する保持手段と、前記保持手段に蓄積された電荷量に基づいて導通状態が設定され、前記導通状態に応じた電流レベルを有する電流を前記電気光学素子に供給する駆動用トランジスタと、前記保持手段へ前記データ信号を伝送するのに先立って前記駆動用トランジスタの制御用端子を所定の電位に設定する調整用トランジスタとを備えた。

【0021】

これによれば、駆動用トランジスタの製造ばらつきによる閾値電圧を補償することができる。その結果、電気光学素子の輝度階調を精度良く制御することができるため、従来の電気光学装置と比較してその表示品位の向上を図ることができる。

【0022】

この電気光学装置において、前記複数の単位回路の各々は、前記調整用トランジスタと所定電位との電気的接続又は電気的切断を制御する第2のスイッチング用トランジスタを含む。

【0023】

これによれば、第2のスイッチング用トランジスタのオン・オフ制御に応じて第1のトランジスタの閾値電圧を補償することができる。

上記の電気光学装置において、前記電気光学素子としては、例えば、有機EL素子である。

【0024】

本発明における電気光学装置の駆動方法は、第1の端子と第2の端子と第1の制御用端子とを備えた第1のトランジスタと、第3の端子と第4の端子とを備え、前記第1の制御用端子に前記第3の端子が接続された第2のトランジスタと、第1の電極と第2の電極とを備え、前記第1の制御用端子に前記第1の電極が接続された容量素子とを含む複数の単位回路と、複数の走査線と、複数のデータ線と、複数の電源線とを含む電気光学装置の駆動方法であって、前記第4の端子を所定電位に電気的に接続するとともに前記第1の制御用端子を第1の電位に設定する第1のステップと、一端が前記第2の電極に接続された第3のトランジスタを前記複数の走査線を介して走査信号を供給することによりオン状態とした後、前記第4の端子を前記所定電位から電気的に切断した状態で、前記複数のデータ線からデータ信号に対応する電圧を前記第3のトランジスタを介して前記第2の電極に印加し、前記第2の電極の電位を第2の電位から第3の電位に変化させることにより前記第1の制御用端子の電位を前記第1の電位から変化させる第2のステップと

を含む。

【0025】

これによれば、第1のトランジスタの閾値電圧を補償する電気光学装置を駆動させることができる。

少なくとも前記第1のステップを行っている期間は前記容量素子の第2の電極の電位を前記第2の電位に設定した状態で行う。

【0026】

上記の電気光学装置の駆動方法において、前記第1のステップは前記容量素子の第2の電極の電位を前記第2の電位に設定した状態で行うことが好ましい。

本発明の電子機器は、上記の電子回路を実装したことを特徴とする。

【0027】

上記の電子機器は、上記の電子回路を備えているので、電流の精密な制御が可能である。

本発明の第2の電子機器は、上記の電気光学装置を実装したことを特徴とする。

【0028】

これによれば、表示品質が優れた表示ユニットを有した電子機器を提供することができる。

【0029】

【発明の実施の形態】

(第1実施形態)

以下、本発明の一つの実施の態様として有機ELディスプレイを例に挙げ、図1～4を用いて説明する。図1は、電気光学装置としての有機ELディスプレイの制御系の構成を示すである。図2は、表示パネル部及びデータ線駆動回路の内部回路構成を示すブロック回路図である。図3は画素回路の回路図である。図4は、画素回路の駆動方法を説明するためのタイミングチャートである。

【0030】

有機ELディスプレイ10は、図1に示すように、制御回路11、表示パネル部12、走査線駆動回路13及びデータ線駆動回路14を備えている。

有機ELディスプレイ10の制御回路11、走査線駆動回路13及びデータ線駆動回路14は、それぞれが独立した電子部品によって構成されていてもよい。例えば、制御回路11、走査線駆動回路13及びデータ線駆動回路14が、各々1チップの半導体集積回路装置によって構成されていてもよい。又、制御回路11、走査線駆動回路13及びデータ線駆動回路14の全部若しくは一部がプログラマブルなICチップで構成され、その機能がICチップに書き込まれたプログラムによりソフトウェア的に実現されてもよい。

【0031】

制御回路11は、図示しない外部装置からの画像データに基づいて表示パネル

部12に画像を表示するための走査制御信号及びデータ制御信号を作成する。そして、制御回路11は、走査制御信号を走査線駆動回路13に出力するとともに、データ制御信号をデータ線駆動回路14に出力する。

【0032】

表示パネル部12は、図2に示すように、列方向に沿って延びるM本のデータ線Xm ($m = 1 \sim M$; mは整数)と、行方向に沿って延びるN本の走査線Yn ($n = 1 \sim N$; nは整数)との交差部に対応する位置に配設された複数の電子回路又は単位回路としての画素回路20を有している。つまり、各画素回路20は、その列方向に沿って延びるデータ線Xmと、行方向に沿って延びる走査線Ynとにそれぞれ接続されることによりマトリクス状に配列されている。又、走査線Ynは、後記する第1の副走査線Ys1と第2の副走査線Ys2(図3参照)とから構成されている。

【0033】

画素回路20は、図2に示すように、電子素子又は電気光学素子としての有機EL素子21を有する。又、各画素回路20は、それぞれ列方向に沿って延びる電源線VLと接続されて、その電源線VLを介して電源電位としての駆動電圧Vd dが供給されるようになっている。尚、本実施形態では各画素回路20内に配置形成される後記するトランジスタは、ここではTFT(薄膜トランジスタ)で構成されているが、これに限定されることはなく、たとえば、MOSトランジスタで構成されていても良い。

【0034】

走査線駆動回路13は、制御回路11から出力される走査制御信号に基づいて、表示パネル部12に配置された複数の走査線Ynのうち、1本の走査線を選択し、その選択された走査線に走査信号を出力する。

【0035】

データ線駆動回路14は、図2に示すように、複数の单一ラインドライバ23を備えている。单一ラインドライバ23は、表示パネル部12に配設されたデータ線Xmと接続されている。

【0036】

詳しくは、データ線駆動回路14は、制御回路11から出力されたデータ制御信号に基づいて、それぞれのデータ信号としてのデータ電圧V_{data}を生成する。そして、その生成されたデータ電圧V_{data}は前記データ線Xmを介して各画素回路20に供給される。そして、前記画素回路20は、このデータ電圧V_{data}に応じて同画素回路20の内部状態が設定されることで、有機EL素子21に流れる駆動電流I_{el}（図3参照）が制御されるようになっている。また、データ線駆動回路14は、後記するデータ書き込み期間T1において、前記データ電圧V_{data}を供給する前に駆動電圧V_{dd}を各画素回路20に供給するようになっている。

【0037】

このように構成された有機ELディスプレイ10を構成する画素回路20について図3に基づいて以下に説明する。

画素回路20は、図3に示すように、駆動用トランジスタTrd、調整用トランジスタTrcを備えている。又、画素回路20は、第1のスイッチング用トランジスタTr1及び第2のスイッチング用トランジスタTr2を備えている。更に、画素回路20は、容量素子又は保持手段としてのカップリング用コンデンサC1と保持用キャパシタC2とを備えている。

【0038】

尚、特許請求の範囲における第1のトランジスタ及び駆動用トランジスタ、第1の端子、第2の端子、第1の制御用端子及び制御用端子は、それぞれ、本実施形態においては、駆動用トランジスタTrd、駆動用トランジスタTrdのドレイン、駆動用トランジスタTrdのソース、駆動用トランジスタTrdのゲートに対応している。また、第2のトランジスタ及び調整用トランジスタ、第3の端子、第4の端子、第2の制御用端子及び制御用端子は、それぞれ、調整用トランジスタTrc、調整用トランジスタTrcのドレイン、調整用トランジスタTrcのソース、調整用トランジスタTrcのゲートに対応している。さらに、第3のトランジスタ、第5の端子、第6の端子、第3の制御用端子は、それぞれ、第1のスイッチング用トランジスタTr1、第1のスイッチング用トランジスタTr1のドレイン、第1のスイッチング用トランジスタTr1のソース、第1のス

イッティング用トランジスタTr1のゲートに対応している。また、第4のトランジスタ、第7の端子、第8の端子、第4の制御用端子は、それぞれ、第2のスイッティング用トランジスタTr2、第2のスイッティング用トランジスタTr2のソース、第2のスイッティング用トランジスタTr2のドレイン、第2のスイッティング用トランジスタTr2のゲートに対応している。

【0039】

駆動用トランジスタTrd及び調整用トランジスタTrcの導電型は、それぞれ、p型（pチャネル）で構成されている。又、第1及び第2のスイッティング用トランジスタTr1, Tr2の導電型は、それぞれ、n型（nチャネル）で構成されている。

【0040】

駆動用トランジスタTrdは、ドレインが有機EL素子21の陽極に接続されている。有機EL素子21の陰極は接地されている。駆動用トランジスタTrdのソースは前記電源線VLに接続されている。駆動用トランジスタTrdのゲートは、カップリング用コンデンサC1と、保持用キャパシタC2と、調整用トランジスタTrcとにそれぞれ接続されている。カップリング用コンデンサC1の静電容量はCaである。又、保持用キャパシタC2の静電容量はCbである。

【0041】

詳しくは、カップリング用コンデンサC1は、その第1の電極Laが前記駆動用トランジスタTrdのゲートに接続されるとともに、第2の電極Lbが第1のスイッティング用トランジスタTr1のドレインに接続されている。保持用キャパシタC2は、その第3の電極Lcが前記駆動用トランジスタTrdのゲートに接続されるとともに、第4の電極Ldが前記電源線VLに接続されている。

【0042】

又、第1のスイッティング用トランジスタTr1のゲートは、前記走査線Ynを構成する第1の信号線としての第1の副走査線Ys1に接続されている。

調整用トランジスタTrcは、ノードNにて、そのゲートがドレインに接続されるとともに、前記駆動用トランジスタTrdのゲートに接続されている。又、調整用トランジスタTrcは、そのソースが第2のスイッティング用トランジスタ

T_r2のソースに接続されている。第2のスイッチング用トランジスタT_r2のドレインは電源線V_Lに接続されている。又、第2のスイッチング用トランジスタT_r2のゲートは、走査線Y_nを構成する第2の信号線としての第2の副走査線Y_s2に接続されている。そして、前記第1の副走査線Y_s1と第2の副走査線Y_s2とで走査線Y_nを構成する。

【0043】

又、前記調整用トランジスタT_rcは、その閾値電圧V_{t h}2が前記駆動用トランジスタT_rdの閾値電圧V_{t h}1とほぼ等しくなるように設定されている。尚、前記調整用トランジスタT_rcの閾値電圧V_{t h}2は、その駆動条件に応じて適宜設定してもよい。又、前記駆動電圧V_{d d}はデータ電圧V_{d a t a}と比べて十分高くなるように予め設定されている。

【0044】

次に、前記のように構成された有機ELディスプレイ10の画素回路20の動作について図4に従って説明する。なお、図4において、T_c、T₁及びT₂は、それぞれ、駆動周期、第1及び第2のステップとしてのデータ書き込み期間及び発光期間を表している。駆動周期T_cは、データ書き込み期間T₁と発光期間T₂とから構成されている。駆動周期T_cは、前記有機EL素子21の輝度階調が1回ずつ更新される周期を意味しており、所謂、フレーム周期と同じものである。

【0045】

まず、データ書き込み期間T₁において、前記走査線駆動回路13から第2の副走査線Y_s2を介して第2のスイッチング用トランジスタT_r2のゲートに同第2のスイッチング用トランジスタT_r2をオン状態にする第2の走査信号S_C2が印加される。すると、第2のスイッチング用トランジスタT_r2がオン状態になる。その結果、調整用トランジスタT_rcのソースには前記電源線V_Lを介して駆動電圧V_{d d}が供給される。また、このとき、走査線駆動回路13から第1の副走査線Y_s1を介して第1のスイッチング用トランジスタT_r1のゲートに同第1のスイッチング用トランジスタT_r1をオフ状態にする第1の走査信号S_C1が印加されている。

【0046】

このことによって、調整用トランジスタ T_{r c} のソースの電位は駆動電圧 V_{d d} になる。そして、前記ノード N での電位 V_{n 1} は、駆動電圧 V_{d d} から調整用トランジスタ T_{r c} の閾値電圧 V_{t h 2} 分の値とが減算された値 ($V_{n 1} = V_{d d} - V_{t h 2}$) となるとともに、その電位 V_{n 1} が初期電位 V_{c 1} として保持用キャパシタ C₂ に保持される。また、前記電位 V_{n 1} が駆動用トランジスタ T_{r d} のゲートに供給される。その結果、前記したように、調整用トランジスタ T_{r c} の閾値電圧 V_{t h 2} は、駆動用トランジスタ T_{r d} の閾値電圧 V_{t h 1} とほぼ等しいので、前記駆動用トランジスタ T_{r d} はその閾値電圧 V_{t h 1} が補償された状態になる。

【0047】

その後、走査線駆動回路 13 から第 2 の副走査線 Y_{s 2} を介して第 2 のスイッチング用トランジスタ T_{r 2} のゲートに同第 2 のスイッチング用トランジスタ T_{r 2} をオフ状態にする第 2 の走査信号 S_{C 2} が印加される。すると、第 2 のスイッチング用トランジスタ T_{r 2} がオフ状態になる。続いて、走査線駆動回路 13 から第 1 の副走査線 Y_{s 1} を介して第 1 のスイッチング用トランジスタ T_{r 1} のゲートに同第 1 のスイッチング用トランジスタ T_{r 1} をオン状態にする第 1 の走査信号 S_{C 1} が印加される。すると、第 1 のスイッチング用トランジスタ T_{r 1} がオン状態になる。

【0048】

そして、まず、前記データ線 X_m を介して画素回路 20 に駆動電圧 V_{d d} が供給される。その後、直ちに前記データ線駆動回路 14 の單一ラインドライバ 23 からデータ線 X_m を介してデータ電圧 V_{d a t a} が供給される。

【0049】

このことによって、前記初期電位 V_{c 1} は、カップリング用コンデンサ C₁ の静電容量 C_a 及び保持用キャパシタ C₂ の静電容量 C_b を用いると、以下の式で表わす値に変化する。

【0050】

$$V_{c 1} = V_{d d} - V_{t h 2} + C_a / (C_a + C_b) \cdot \Delta V_{d a t a}$$

ここで、 ΔV_{data} は、前記駆動電圧 V_{dd} とデータ電圧 V_{data} との電位差 ($=V_{dd} - V_{data}$) である。そして、この $V_{dd} - V_{th2} + Ca / (Ca + Cb) \cdot \Delta V_{data}$ が最終電位 V_c2 として駆動用トランジスタ T_{rd} のゲートに供給される。

【0051】

前記最終電位 V_c2 に応じて、駆動用トランジスタ T_{rd} の導通状態が設定され、その導通状態に応じた駆動電流 I_{e1} が有機EL素子21に供給される。この電流 I_{e1} は、その駆動用トランジスタ T_{rd} のゲート電圧とソース電圧との電圧差を V_{gs} で表すと、以下のように表される。

【0052】

$$I_{e1} = (1/2) \beta (-V_{gs} - V_{th1})^2$$

ここで、 β は利得係数であって、キャリアの移動度を μ 、ゲート容量を A 、チャネル幅を W 、チャネル長を L で表すと、利得係数 β は、 $\beta = (\mu A W / L)$ となる。なお、駆動用トランジスタ T_{rd} のゲート電圧 V_g は前記最終電位 V_c2 である。つまり、駆動用トランジスタ T_{rd} のゲート電圧とソース電圧との電圧差 V_{gs} は以下のように表される。

【0053】

$$V_{gs} = V_{dd} - [V_{dd} - V_{th2} + Ca / (Ca + Cb) \cdot \Delta V_{data}]$$

従って、駆動用トランジスタ T_{rd} の駆動電流 I_{e1} は以下のように表される。

【0054】

$$I_{e1} = (1/2) \beta [V_{th2} - Ca / (Ca + Cb) \cdot \Delta V_{data} - V_{th1}]^2$$

ここで、前記調整用トランジスタ T_{rc} の閾値電圧 V_{th2} は、前記したように、駆動用トランジスタ T_{rd} の閾値電圧 V_{th1} とほぼ等しくなるように設定してあるので、駆動電流 I_{e1} は以下のように表される。

【0055】

$$I_{e1} = (1/2) \beta [V_{th2} - Ca / (Ca + Cb) \cdot \Delta V_{data} -$$

$$V_{th1}^2 = (1/2) \beta [C_a / (C_a + C_b) \cdot \Delta V_{data}]^2$$

従って、上式に示されるように、前記駆動電流 I_{el} は、前記駆動用トランジスタ T_{rd} の閾値電圧 V_{th1} に依存することなく、データ電圧 V_{data} に対応した大きさの電流となる。そして、この駆動電流 I_{el} が前記有機EL素子21に供給され、同有機EL素子21が発光することとなる。

【0056】

次に、前記データ書き込み期間 T_1 終了後、発光期間 T_2 にて、前記走査線駆動回路13から第1の副走査線 Y_{s1} を介して第1のスイッチング用トランジスタ T_{r1} のゲートに同第1のスイッチング用トランジスタ T_{r1} をオフ状態にする第1の走査信号 S_C1 が印加される。すると、第1のスイッチング用トランジスタ T_{r1} がオフ状態になる。

【0057】

この発光期間 T_2 においては、前記最終電位 V_{c2} に応じて設定された駆動用トランジスタ T_{rd} の導通状態に応じた駆動電流 I_{el} が有機EL素子21に供給されることとなる。

【0058】

以上のことより、各画素回路20の駆動用トランジスタ T_{rd} の閾値電圧 V_{th1} が製造ばらつきによって相違しても駆動電流 I_{el} はデータ電圧 V_{data} のみで決定される。このことから、有機EL素子21は、データ電圧 V_{data} に基づいて精度良く輝度階調が制御されることとなる。その結果、表示品質の良い有機ELディスプレイ10を提供することができる。

【0059】

前記実施形態の有機ELディスプレイ10及び画素回路20によれば、以下のような特徴を得ることができる。

(1) 上記の実施形態では、駆動用トランジスタ T_{rd} 、第1及び第2のスイッチング用トランジスタ T_{r1} 、 T_{r2} 、調整用トランジスタ T_{rc} 、カップリング用コンデンサ C_1 及び保持用キャパシタ C_2 で画素回路20を構成した。そして、駆動用トランジスタ T_{rd} には、同駆動用トランジスタ T_{rd} の閾値電圧

V_{th1} を補償する補償電圧を生成する調整用トランジスタ T_{rc} の閾値電圧 V_{th2} が前記駆動用トランジスタ T_{rd} のゲートに印加されるようにした。このようにすることによって、駆動用トランジスタ T_{rd} の閾値電圧 V_{th2} を補償することができる。このことから、各画素回路20の駆動用トランジスタ T_{rd} の閾値電圧 V_{th1} のばらつきを低減することができるので、前記データ線 Xm を介してデータ線駆動回路14から供給されるデータ電圧 V_{data} に対応した駆動電流 I_{el} を精度良く制御することができる。従って、有機EL素子21は、データ電圧 V_{data} に基づいて精度良く輝度階調が制御されることとなる。その結果、表示品質の良い有機ELディスプレイ10を提供することができる。

【0060】

尚、上記の実施形態において、駆動用トランジスタ T_{rd} 、第1及び第2のスイッチング用トランジスタ T_{r1} 、 T_{r2} 、及び調整用トランジスタ T_{rc} はそれぞれ、p型トランジスタ、n型トランジスタ、n型トランジスタ及びp型トランジスタを用いたが、特に限定されず、適宜、トランジスタの導電型は選択することができる。例えば、駆動用トランジスタ T_{rd} 及び調整用トランジスタ T_{rc} としてn型トランジスタを使用することも可能である。また、第1及び第2のスイッチング用トランジスタ T_{r1} 、 T_{r2} として互いに導電型の異なるトランジスタを使用することができる。その場合、第1及び第2のスイッチング用トランジスタ T_{r1} 、 T_{r2} のゲートを共通の信号線、例えば、走査線に接続し、相補的に動作させるようにすれば、配線に要する面積を低減することも可能となる。

(第2実施形態)

次に、第1実施形態で説明した電気光学装置としての有機ELディスプレイ10の電子機器の適用について図5及び図6に従って説明する。有機ELディスプレイ10は、モバイル型のパーソナルコンピュータ、携帯電話、デジタルカメラ等種々の電子機器に適用できる。

【0061】

図5は、モバイル型パーソナルコンピュータの構成を示す斜視図を示す。図5において、パーソナルコンピュータ50は、キーボード51を備えた本体部52

と、前記有機ELディスプレイ10を用いた表示ユニット53とを備えている。この場合においても、有機ELディスプレイ10を用いた表示ユニット53は前記実施形態と同様な効果を発揮する。この結果、表示品質の良い有機ELディスプレイ10を備えたモバイル型パーソナルコンピュータ50を提供することができる。

【0062】

図6は、携帯電話の構成を示す斜視図を示す。図6において、携帯電話60は、複数の操作ボタン61、受話口62、送話口63、前記有機ELディスプレイ10を用いた表示ユニット64を備えている。この場合においても、有機ELディスプレイ10を用いた表示ユニット64は前記実施形態と同様な効果を発揮する。この結果、表示品質の良い有機ELディスプレイ10を備えた携帯電話60を提供することができる。

【0063】

尚、発明の実施形態は、上記実施形態に限定されるものではなく、以下のように実施してもよい。

○前記実施形態では、単位回路として画素回路20に具体化して好適な効果を得たが、有機EL素子21以外の例えばLEDやFED等の発光素子のような電流駆動素子を駆動する単位回路に具体化してもよい。RAM等の記憶装置に具体化してもよい。

【0064】

○前記実施形態では、画素回路20の電流駆動素子として有機EL素子21について具体化したが、無機EL素子に具体化してもよい。つまり、無機EL素子からなる無機ELディスプレイに応用しても良い。

【0065】

○前記実施形態では、1色からなる有機EL素子21の画素回路20を設けた有機ELディスプレイ10であったが、赤色、緑色及び青色の3色の有機EL素子21に対して各色用の画素回路20を設けたELディスプレイに応用しても良い。

【図面の簡単な説明】

【図1】

第1実施形態の有機ELディスプレイの回路構成を示すブロック回路図である。

【図2】

表示パネル部及びデータ線駆動回路の内部回路構成を示すブロック回路図である。

【図3】

第1実施形態の画素回路の回路図である。

【図4】

第1実施形態の画素回路の動作を説明するためのタイミングチャートである。

【図5】

第2実施形態を説明するためのモバイル型パーソナルコンピュータの構成を示す斜視図である。

【図6】

第2実施形態を説明するための携帯電話の構成を示す斜視図である。

【符号の説明】

C 1 容量素子又は保持手段としてのカップリング用コンデンサ

L a 第1の電極

L b 第2の電極

T r d 第1のトランジスタとしての駆動用トランジスタ

T r c 第2のトランジスタとしての調整用トランジスタ

T r 1 第3のトランジスタとしての第1のスイッチング用トランジスタ

T r 2 第4のトランジスタとしての第2のスイッチング用トランジスタ

V d a t a データ信号としてのデータ電圧

V d d 電源電位としての駆動電圧

Y n 走査線

X m データ線

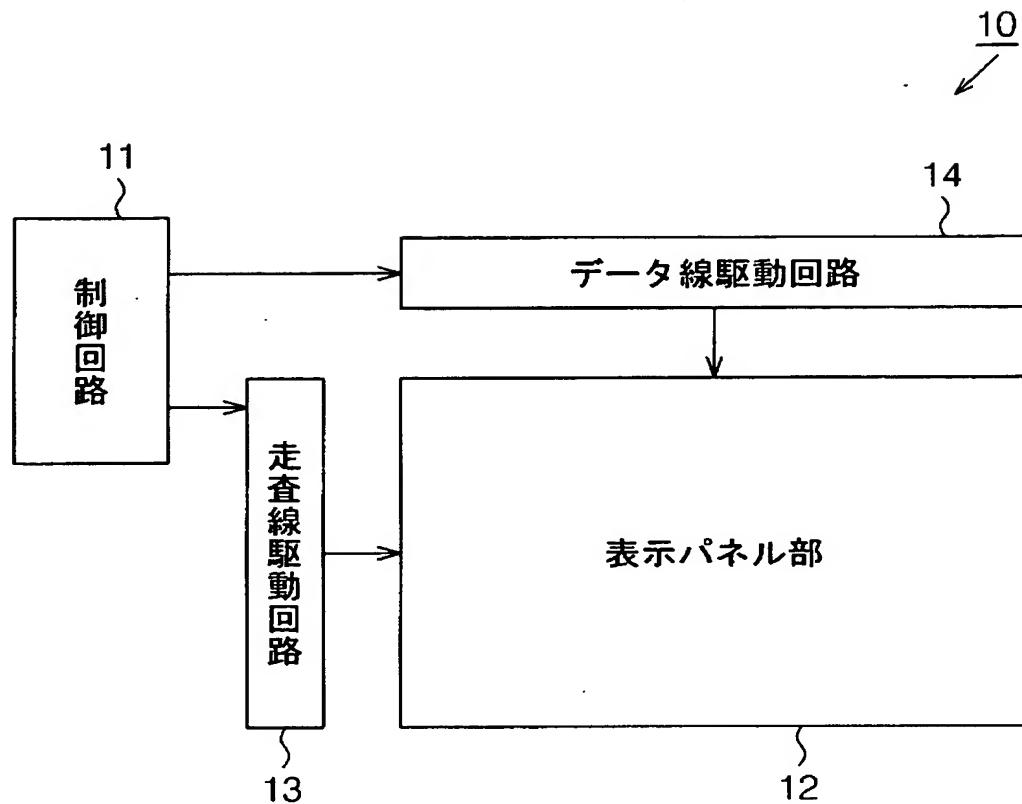
1 0 電気光学装置としての有機ELディスプレイ

2 0 単位回路又は電子回路としての画素回路

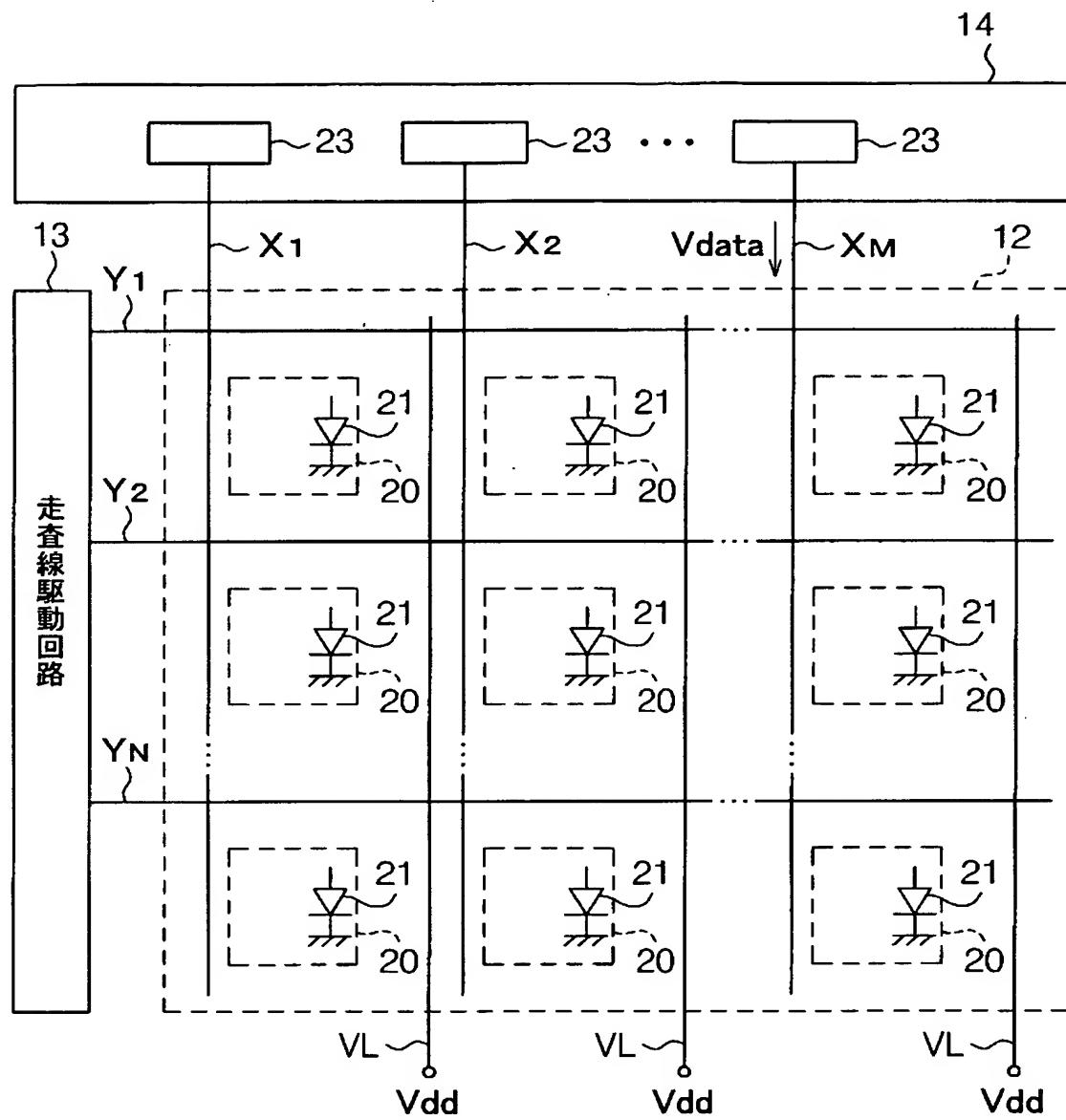
- 21 電素素子又は電流駆動素子としての有機EL素子
- 50 電子機器としてのモバイル型パーソナルコンピュータ
- 60 電子機器としての携帯電話

【書類名】 図面

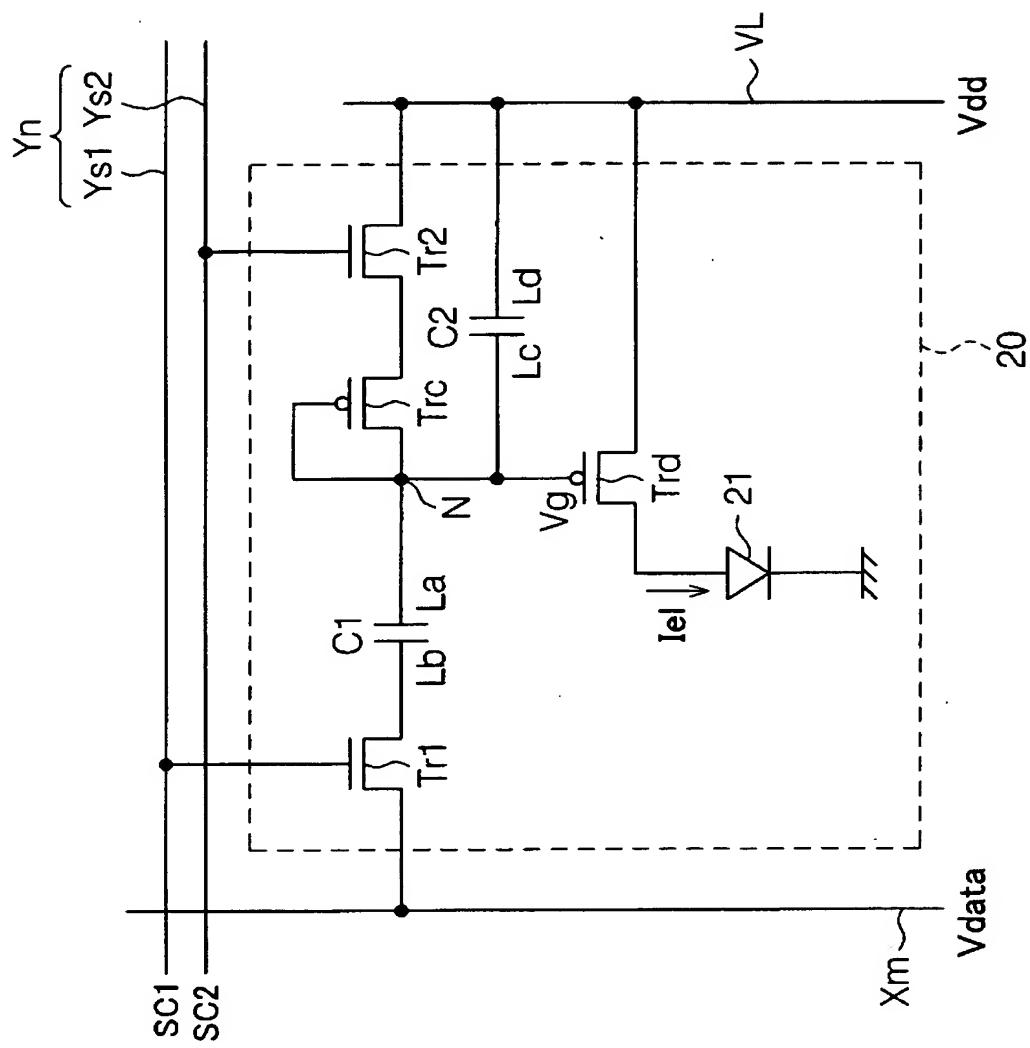
【図 1】



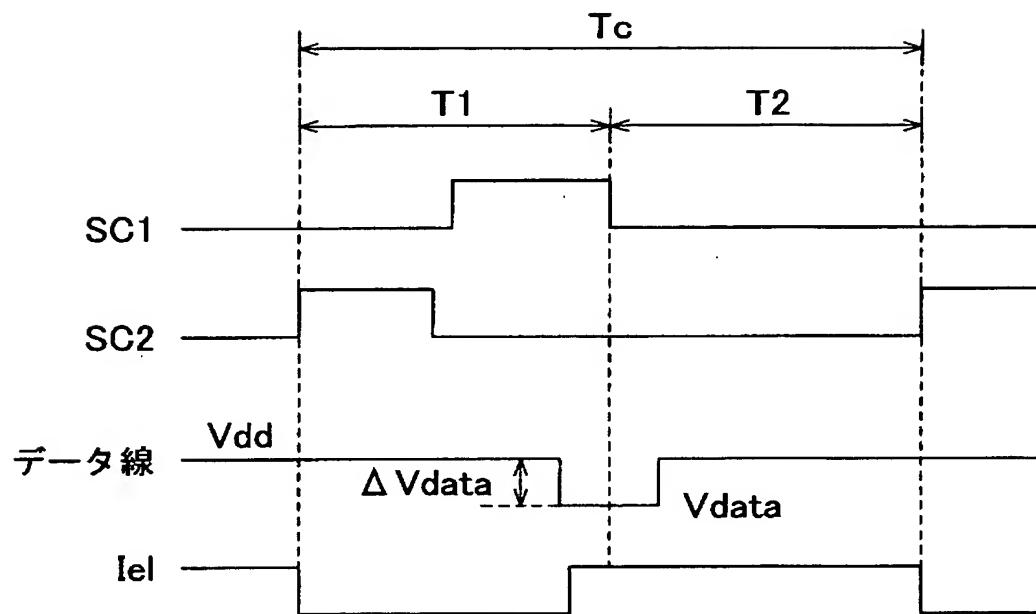
【図2】



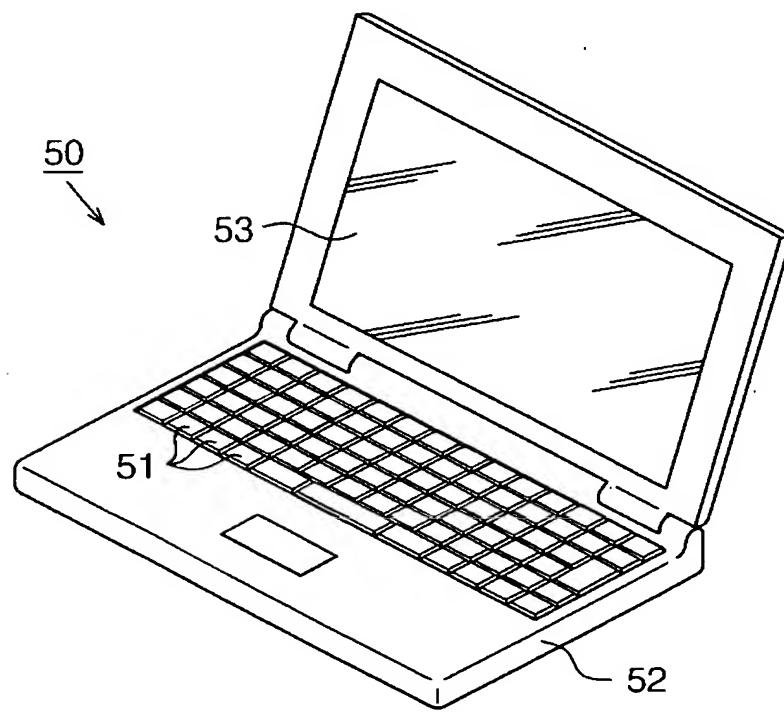
【図3】



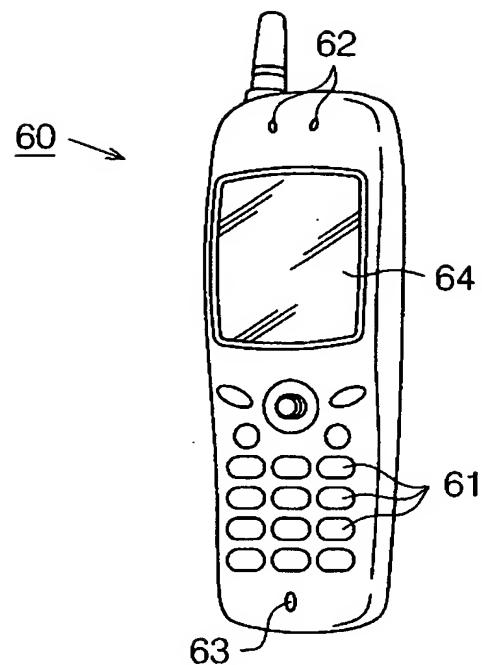
【図4】



【図5】



【図6】



【書類名】 要約書

【要約】

【課題】 トランジスタの閾値電圧のばらつきを低減することができる電子回路、電子回路の駆動方法、電気光学装置、電気光学装置の駆動方法及び電子機器を提供する。

【解決手段】 駆動用トランジスタ T_{r d}、第1及び第2のスイッチング用トランジスタ T_{r 1}、T_{r 2}、調整用トランジスタ T_{r c}、カップリング用コンデンサ C₁及び保持用キャパシタ C₂での画素回路 20 を構成した。そして、補償用トランジスタ T_{r c}の閾値電圧が駆動用トランジスタ T_{r d}のゲートに印加されるようにした。

【選択図】 図 3

特願 2002-223160

出願人履歴情報

識別番号

[000002369]

1. 変更年月日

[変更理由]

住 所
氏 名

1990年 8月20日

新規登録

東京都新宿区西新宿2丁目4番1号
セイコーエプソン株式会社